【資料 3-1-2 ⑨】

政策研究センター
リサーチ・プロジェクト
成果報告書

提出日: 2017/2/21

	氏名	職名	所属
申請者(リーダ	山口綾乃	研究助手	政策研究科

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) 性格特性と文化的自己観が健康とウェルビーングに与える影響の分析

(英文) Effects of Personality Traits and Self-Construals on Health and Well-Being

期間:

04/01/2016 から 03/31/2018

研究組織:

	氏名	職名	所属機関・部局名	摘要(変更等を記入)
リーダー	Ayano Yamaguchi	研究助手	政策研究大学院大学政策研究科	
分担者1	Kiyoshi Kurokawa	教授	政策研究大学院大学政策研究科	
分担者2	Satoshi Akutsu	教授	一橋大学大学院	
分担者3	Atsushi Oshio	教授	早稲田大学大学院	
分担者4	Min-Sun Kim	教授	ハワイ大学大学院	
分担者5	Nancy Lewis	教授	イーストウエストセンター(国立東西研究所)	
分担者6	Eldon Wegner	教授	ハワイ大学大学院	
分担者7				

リサーチ・プロジェクトの目的

(1) 研究目的

(A) MIDlife in the US (MIDUS) and MIDlife in Japan (MIDJA) Research Project:

私のような政策研究大学院大学(GRIPS)における政策研究、政策科学の専門の研究者と、一橋大学大学院、早稲田大学大学院、ハワイ大学大学院、イーストウエストセンター(国立東西研究所)代表がミシガン大学大学院、ウィスコンシン大学大学院、スタンフォード大学院の研究者で構成されるMIDUS and MIDJA Research Projectに協働することにより、日米の中高年齢層に関しての環境・包括的なアプローチからの生きがい、Health and Well-Being Research の重要政策諸課題の解決の貢献することが本共同プロジェクトの目的である。

(B) Social Capital and Quality of Life in Disaster Research:

政策研究大学院大学(GRIPS)における政策研究、政策科学の専門の研究者と、一橋大学大学院、早稲田大学大学院、ハワイ大学大学院、イーストウエストセンター代表がSocial Capital Disaster Researchに協働することにより、環境・包括的なアプローチからのSocial Capital Disaster Researchの重要政策諸課題の解決の貢献することが本共同プロジェクトの目的である。

研究成果の概要(800字以内):

2017ー

(1) 現在取り組んでいる研究状況

(A) MIDlife in the US (MIDUS) and MIDlife in Japan (MIDJA) Research Project:

ミシガン大学大学院、ウィスコンシン大学大学院、スタンフォード大学大学院の研究者で構成されるMIDUS and MIDJA Research Project に私のような政策研究大学院大学(GRIPS)における政策研究、政策科学の専門の研究者と、一橋大学大学院、早稲田大学大学院、ハワイ大学大学院、イーストウエストセンター(国立東西研究所)代表が参画する機会をいただきました。中高年齢層の生きがい、Health and Well-Beingについて日米データを使い、複数の学術論文を国際ジャーナル(米国ではトップレベル)に投稿したところ、掲載が決まりました。掲載にあたり、ミシガン大学大学院北山教授、ウィスコンシン大学大学院リフ教授、スタンフォード大学大学院マーカス教授からも貴重な論文に関するコメントやアドバイスをいただく機会を得ましたし、掲載が決まった際、各教授から複数に関する論文の功績に関しまして、祝辞をいただきました。さらなる発展として、研究を継続していくことになります。必要に応じてミシガン大学院、ウィスコンシン大学院、スタンフォード大学院からのコメントをいただき、複数の論文を論文化していく予定です。

(B) Social Capital and Quality of Life in Disaster Research:

ハワイ大学大学院、イーストウエストセンター(国立東西研究所)代表からのコメントをもとに論文を適宜修正し、社会関係資本と被災地域研究という論文を国際ジャーナル(学術誌、米国ではトップレベル)に投稿したところ、ハーバード大学院公衆衛生学カワチイチロー教授の目に留まり、アプローチが独創的で面白いという事で、論文化における貴重なアドバイスやコメントをいただく機会がございました。論文掲載にあたり、カワチ先生並びに社会関係資本と被災地域研究で世界的権威のあるアンドリッチ先生(ハーバード大学大学院のカワチ先生が認めている)からも必要に応じてコメントをいただきながら、論文化する予定です。(元、イーストウエストセンター国立東西研究所研究員であり、私の先輩)今後、必要に応じて日米の研究者にアドバイスやコメントをいただきながら、研究を進め、論文化する予定です。

研究成果:

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項:

当初の計画以上に進展しているため、さらに研究を発展させていきたいと考えている。特に今回は、2つの新しいアプローチからの研究を私が研究代表者として動かしているため、日米の研究者に支障が出ないよう、きちんと適宜確認し、連絡をしながら、研究を進めていくつもりです。私自身、ハワイ大学大学院がベースとなりますが、米国においての東アジア、日本文化としての研究を進めることは大変意義があり、それを痛切に感じております。ハーバード大学大学院のカワチ先生もミシガン大学大学院北山先生も、思いは同じで、東アジア人としての研究、例えば、震災に関する諸問題とするならば、日本社会、文化をとらえながらの研究が世界ではあまりにも少なく、私が今回論文を投稿した際に、アプローチの斬新さを指摘していただいた次第です。こういった斬新なアプローチがなかったということで、海外の研究者から私に問い合わせが来ております。もともと、この斬新なアプローチは、黒川先生や私の所属している黒川研の皆様(秘書の方たち)、ハワイ大学の金先生、一橋大学大学院阿久津先生、早稲田大学大学院小塩先生、中嶋先生からのアドバイスの賜物であります。これからも、皆様と話し合いを続けながら、あるいは、学生とも話し合いをする機会を設けていければと思っております。日本人として、日本社会からしっかりとした震災被災地研究を発信する意味、さらに、日本人の高齢化のスピードは世界でもダントツであるという現実がございますので、日米の中高年齢層における生きがい、健康、

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)
(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。)等掲載)
※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。
※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

3 件　　件　　3　　3　　0

	著者	標題	雑誌名 /所収図書の編者・図書名・出版者等	巻・号 /章・節	発行年	開始 ページ	終了 ページ	査読(有=1)	国際共著 (yes=1)	DOI	オープンアクセス (yes=1)
1	Yamaguchi, A., Kim, M.S., & Akutsu, S.	The Effects of Self-Construals and Interactive Constraints on Consumer Complaint Behaviors Across Cultures.	Psychological Studies, Springer	61 (4)	Dec-16	267	- 278	1	1	10.1007/s12646-016-0371-9	
2	Akutsu, S., Yamaguchi, A., Kim, M.S., & Oshio, A.	Self-Construals, Anger Regulation, and Life Satisfaction in the United States and Japan.	Frontier in Psychology, Frontier	7 (768)	May-16	1	- 12	1	1	10.3389/fpsyg.2016.00768	
3	Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., & Akutsu, S.	Relationship between Bicultural Identity and Psychological Well-Being among American and Japanese Older Adults.	Health Psychology Open, Sage	3 (1)	Jan-16	1	- 12	1	1	10.1177/2055102916650093	

図書:
※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

1 件　　-

	著者・編者	図書名	出版者	発行年	総ページ数
1	特になし				

口頭報告・学会発表等:
※査読付きの学会論文集は、論文の区分で報告してください。査読なしの学会論文集は、学会発表の区分で報告してください。
※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

2 件

	報告者等	論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1	Ayano Yamaguchi	The Role of Anger Regulation on Perceived Stress Status and Chronic Conditions in Japan and the U.S.	National Communication Association in Philadelphia, PA, U.S.	2016/11/10	Marriot Downtown Philadelphia
2	Ayano Yamaguchi	Relationship Between Bicultural Identity and Psychological Well-Being Among Japanese and American Older Adults.	National Communication Association in Philadelphia, PA, U.S.	2016/11/12	Marriot Downtown Philadelphia